

V 交流を広げる（活気）

人口減少・超高齢時代にふさわしい新しい街づくりや「ふくい文化」の創造を進め、活気にあふれる「新しいふるさと」をつくりまします。高速交通網を活用し、国内外とつながる新たなネットワークを築いて人流・物流を活性化します。

V-1 新時代の街づくり

1 新時代にふさわしい都市改造

- 長期的な展望を持ち、人口減少・超高齢時代にふさわしい「新時代の都市改造」を各市とともに推進
- 福井駅周辺のにぎわい創出など、県都中心部の再設計(リ・デザイン)を福井市とともに推進
- 高齢者標準の街づくりなど、誰もが安心して活動できる公共空間、移動空間を創造
- ICT(情報通信技術)の大きな進歩を活かし、新しい技術を取り入れた情報ネットワークづくりを促進

2 暮らしを高める「ふくい文化」

- 福井の伝統・文化を次世代に引き継ぐ「ふくい文化の後継者」づくり
- 各家庭や企業に伝わる一級の美術品や各地域に残る歴史的遺産などを遺す「ふるさと遺産コレクション」
- ふくいゆかりの作家や作品を紹介する「ふるさと文学館」の設置

3 福井のブランド・観光新展開

- 福井ブランドの創造と発信の強化・ビジネス化の推進、官民の「共働営業」により福井の認知力向上
- 魅力ある観光資源をつなぐ「若狭湾岸ハイウェイ」プロジェクト、「恐竜王国ふくい」のブランド価値向上、ヘルス・ツーリズムなどにより、アジアをはじめ国内外からの観光誘客を拡大



V-2 交流ネットワーク拡大

1 内外の力を活かす「新しいふるさと」

- 国内外に積極的に開き、外の活力を取り込むことによって活気あふれる「新しいふるさと」づくりを推進
- 県内各地域における帰住・移住希望者の受入体制を整え、「ふるさと帰住」や「新ふくい人の誘致」を促進

2 ローカル・ネットワークの発展

- 「ローカル・アンド・ローカル」の自治体ネットワークにより、「地方知」を活かした施策づくりを推進
- 企業、団体、大学、メディアなど地方間の新ネットワークを広げ、地方発のビジネスモデルを創出
- 都市住民へ新たなライフスタイルを提案し、「ふるさと起業」など大都市から地方への新しい動きを創出



子どもの頃から本物の芸術文化を体験



人流・物流の大動脈となる舞鶴若狭自動車道



恐竜王国ふくい(福井県立恐竜博物館)

「福井県民の将来ビジョン」は何をめざしているの？

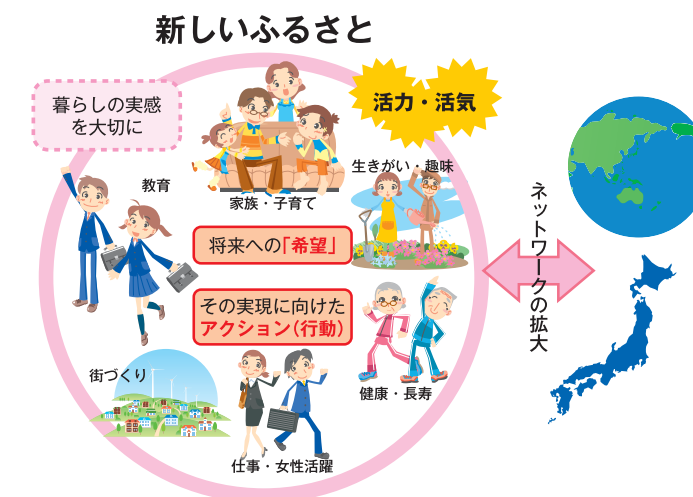
(ビジョンの基本理念)

「希望ふくい」の創造

優れた福井の特性を自覚し、維持するとともに、次の世代へより良くして残すため、新しいみんなの「希望」をつくり、外に開き、力を合わせ行動しよう

ビジョンの基本理念は、「希望ふくい」の創造です。

福井が持つ優れた条件や潜在力を最大限に活かし、みんなで力を合わせて行動することによって、「希望」にあふれるふるさと福井を創造し、次の世代へ引き継いでいきます。



第2章 実現のための戦略

戦略の体系(5つの「活」で福井の「活路」を開く)

- I 人が生きる(活躍)
 - I-1 「人づくり」先進福井
 - I-2 県民活躍社会の創出
- II つながりを活かす(活用)
 - II-1 つながりで築く地域社会
 - II-2 安全で安心な地域づくり
- III 環境を創る(活動)
 - III-1 美しい「福井の風景」創造
 - III-2 環境先端の基盤づくり
- IV 成長を産み出す(活力)
 - IV-1 「福井の産業」新展開
 - IV-2 挑戦する農林水産業
 - IV-3 アジアの成長と活力の取り込み
- V 交流を広げる(活気)
 - V-1 新時代の街づくり
 - V-2 交流ネットワーク拡大

ビジョンの推進方針

県行政の責務と役割

- 「県民主役」の行政を市町とともに推進
- 地方と大都市の新しい関係を構築

ビジョンの実現方策

- さまざまな分野における県民運動の展開
- 具体的な施策・プロジェクトの推進

私たちの生活にどんな変化が起こっているの？ 福井は

私たちの生活に大きな影響を及ぼす環境変化を3つの視点でとらえ、みんなが力を合わせてめざす方向を示します。

(ビジョンの前提となる環境の変化と福井の進むべき方向)

グローバル大競争社会

人口減少・超高齢社会

つながり希薄化社会

(人間関係の変化)への対応

● 工場産業、農林水産業などの後継者育成と海外販路開拓

福井の工場産業、農林水産業は厳しいグローバル競争にさらされています。福井に残る全国有数の「産地」を引き継ぎ、新しい展開をつくり出す後継者の育成と、福井のものづくり基盤を活かした新製品開発や海外への販路開拓が急務です。

● アジア最大の原子力エネルギー技術の集積を活かした産業・人材の育成

環境・エネルギー問題への対応が世界共通の課題となっています。福井の福地地域は、原子力発電所が集積するアジア最大のクワン・エネルギーの供給地です。この基盤を活かして関連産業や人材を育成し、アジアに貢献することが福井の使命です。

● 福井の地理的優位性と歴史的特性を活かしたアジアとの交流拡大

福井はアジアに直面し、関西・中京に近い地理的優位性、大陸と深いつながりを示す多くの歴史があります。また、高速交通網の整備により、福井の立地条件は飛躍的に向上します。これを好機とし、アジアとの交流を拡大していく必要があります。

● 人口構造の変化に適応したライフスタイルの確立

福井の人口は2020年に76万人へ減少、高齢者は23万人と3万人増加すると予測されています。人口減少・超高齢社会に適応したライフスタイルを築き、新しい時代にふさわしい豊かさの基準を福井から積極的に示していく必要があります。

● 子ども高齢者も元氣な社会の実現

出生率や高齢者の元氣生活率は、全国トップクラスの水準にあります。福井が率先して、子ども高齢者も元氣に活躍する社会づくりを進め、新しい時代をリードしていく必要があります。

● 地方と大都市の人口循環の創出

大学進学等を機に、毎年3千人の若者が県外へ流出し、そのうち帰ってくるのは1千人程度に留まっています。地方と大都市の新たな人口循環の仕組みづくりを進め、福井に1人でも多くの人びとが移り住む環境を整える必要があります。

● 福井に残る絆を活かした地域づくりの推進

つながりの希薄化、人びとの孤立化が全国的に大きな社会問題になっています。福井には、三世帯同居・近居や「おすそわけ」の生活文化が残っています。福井に残る絆を活かし、地域づくりを推進していく必要があります。

● 行動と交流を生み出す県民気質の醸成

福井は、他県との間における人口移動が少ない県です。地域のつながりが強い反面、積極的に前に出たがらない気質があると言われています。外とつながり、行動と交流を生み出す県民気質をみんなで育てていく必要があります。

● 青少年の自然体験・社会経験の機会づくり

情報化の進展や生活様式の変化などに伴い、子どもたちが実体験を重ねる機会が減ってきています。福井の豊かな自然を守り、さまざまな環境を整えていくことにより、子どもたちの自然体験・社会経験の機会を充実することが、今後の課題です。

IV 成長を産み出す (活力)

商工業や農林水産業など福井の産業の技術革新と「ふくいの後継者」育成を最優先に進めます。多様なニーズに応える商品開発力とアジア・マーケットへの販売力を強化し、アジアの成長と活力を取り込みながら福井の産業の成長を産み出します。

IV-1 「福井の産業」新展開

1 「これぞ福井」の技と産地の進化

- 環境・エネルギーや健康長寿など、福井の優れた地域資源を活かしたビジネスモデル創出と産業群育成
- 新たな分野・業種への展開、国内外への販路開拓による工場産業再生
- 企業誘致と立地企業の定着を促進

2 「後継者ラウンド」企業の創出

- 官民一体で雇用の場を確保し、全国最上位の失業率の低さ、求人倍率の高さを維持・向上
- 各産業分野における熟達者の技能の次世代継承と「後継者ラウンド」づくりを促進
- 官民が協力する「起業ビジネス塾」など、若者の力を活かすベンチャー創業者就業促進

IV-2 挑戦する農林水産業

1 売れる福井の特産品群の育成

- 「日本ーおいしい米」、「高品質な木材」、「新鮮な海の幸」など、安心・安全で付加価値の高い「売れる福井の特産品群」を育成
- 坂井北部丘陵地における企業的農業や農林水産業の「6次産業化」を促進

2 豊かな農山漁村の保全と活用

- 農業分野の後継者育成を進め、食料生産と美しい景観の基盤となる優良農地を保全
- 新鮮で安全・安心な地元産の農林水産物の「地産地消」と「食育」をさらに充実
- 福井の農林漁業を体験する教育旅行や園芸福祉など新たな価値を創造

IV-3 アジアの成長と活力の取り込み

1 販路を開くアジア・マーケットへの進出

- 福井の卓越したデザイン力や技術力、信頼性を活かした逸品づくりを進め、アジア市場へ積極的に進出
- アジア市場の開拓に向けた官民連携の商社機能をつくり、県内企業などの海外進出を応援

2 人が行き交うアジア・ネットワークの強化

- 環日本海物流の中心となる港湾機能を強化し、韓国・中国などへの「広角的な福井航路」を開設
- 県立大学などにおいて、アジアで活躍するグローバル産業人材を育成



アパレルから宇宙まで広がる福井の繊維産業



優れた加工技術を誇る福井の眼鏡産業



コシヒカリのふるさと福井